



# とぎのこえ Good News for Japan



## 心のお正月



勝地次郎

「年あらた 祈りてひらく 創世記」

これは、救世軍に属するある信徒が詠んだ俳句です。この方は、クリスチャンとして忠実な生涯を送った方であり、創世記は何度も読んだことがあったことでしょう。しかし、新年を迎えて、心新たに創世記に目を通す、そこから一年の歩みに思いを馳せる……そんな気持ちがこの歌には込められているのでしょう。

創世記の冒頭には

「初めに、神は天地を創造された」(1章1節)

と記されていますが、その神は

「御自分にかたどって人を創造された」(1章27節)

とも記されています。神のかたちに似せて造られた本来の人間の美しさを傷つけ

ているのが人間の罪です。しかし、キリストを迫害するという罪を過去にもつ使徒パウロは、こう言っています。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。」(コリント人への第一の手紙5章17節 口語訳)

それは、迫害者から愛の使徒へと生まれ変わったパウロの確信に満ちた証言とい

うことができるのです。かつて、村松愛蔵という代議士がいました。無欲な清貧な政治家でしたが、贈られた金を不用意に受け取ったことから「日糖事件」と呼ばれることとなる疑獄事件に連座することになり、他の有力な代議士たちと共に刑務所に送られました。代議士たちの言い分は様々であり、

「なに、これは落雷のようなものだ。運悪く僕らの上に落ちたのだよ」と言って、運を咎めて自分を咎めなかった人。

「なに、こんなことは僕らばかりではないからね」と言って、他人を咎めて自分を咎めなかった人がいました。しかし、ただ一人

「今度のことは全く僕が悪かったのです。その申し訳は社会に出てから事実をもつてするしかありません」

と言った人がいたのです。その人こそ村松愛蔵でした。彼は、潔く服役し、釈放されると救世軍に入隊し、救世軍士官としての新しい人生―神と人とに仕える人生―を始めていったのです。

「打ち碎かれ悔いる心を 神よ、あなたは侮られませんか。」(詩編51編19節)とあるように、神は村松愛蔵を赦し、救い、聖めて多くの人々の涙を拭う愛の人として新しく造られたのです。

紀元前十三世紀の初め、エジプトで奴隷の苦役の中にあったイスラエル人が、約束の地カナンを目指してエジプトを脱出する「出エジプト」という一大事件が起こりました。その時、神はイスラエルの人々の指導者であったモーセとアロンにこう言っています。

「この月をあなたたちの正月とし、年の初めの月としなさい。」(出エジプト記12章2節)

奴隷の境遇から脱出した出エジプトの旅は、心を束縛する罪から救われて新しい人生の旅を始めるクリスチャンの姿を象徴していると言えるでしょう。イスラエルの人々の生涯の転機となった「お正月」を、神は私たちに「心のお正月」として備えてくださるのです。

「心のお正月」―それは、主イエスを心の中に救い主として迎えた時に始まるお正月とすることができるようでしょう。私たちが、神に似せて造られた「本来の自分」を取り戻すことができるようにと、主イエスは十字架に架かって死に、三日目によみがえって、これを信じる者に救いの道を開いてくださったのです。

お正月の晴れ着にも勝る美しい衣。それは神のかたちを回復した人のみがまとうことを許された「神の愛と救いの衣」なのです。(救世軍士官「伝道者」司令官)

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

〈インタビュー〉

# 今、伝えたい！ この幸いを、この平安を

—東京・杉並にある救世軍士官学校で、2年目の学びと訓練に励んでいる、士官候補生たちにインタビューをしました。士官(伝道者)となり、神と人ともに仕えるために献身した、彼らの信仰の歩みや現在の思いを語ってもらいました。

「皆さんは現在、士官候補生ですが、どんなきっかけでクリスチャンになったのですか？」

**鈴木** 初めて救世軍に行ったのは、小学二年生の時、隣の同級生の女の子に誘われて前橋小隊(教会にあたる)の日曜学校に行ったのが最初です。日曜学校は楽しく、小隊の人たちがとても温かく迎えてくれたので心地良かったのかなと思います。中学二年生の時、若い人たちの伝道旅行に参加して、そこでキリストを信じる経験をしました。伝道集会で語られたイエス様の十字架は、二千年前の出来事ではなく、自分の心の中にある汚い罪のためであったこと、私のために十字架に架かってくださったことがわかり、本当に泣きながら、神様に赦してくださいとお祈りしました。その時、赦されたという思いと、それまで経験したことのない喜びを感じ、本当

に自分の心の中がらっと変えられた経験をしました。



鈴木智博候補生

に自分の心の中がらっと変えられた経験をしました。

**柞山** 私の家は仏教だったので、教会との関わりはほとんどありませんでした。きっかけは伯母さんのお葬式を神田小隊でいただいたことでした。その後、母が信仰をもつようになり、家族が皆、神田小隊に行くようになりました。私は十五歳でしたが、なかなか信じてることができませんでした。けれども三年後、クリスマスの際に、不思議でしたが、神様の愛は人の愛とは違うということが私の心に深く入ってきて、心動かされ、自分の罪を認め、イエス様を神様と信じることができました。

—家族の皆さんが小隊に導かれ、家庭に変化がありましたか？

**柞山** 引き続きいろいろなことが家庭の中にはありましたが、母がイエス様を信じたことで、神様がいるから必ず何とかなる、という希望の光が、家庭の柱・土台になったように感じました。

**岩見** 私も仏教の家庭に生まれ、教会に行くということはなかったのですが、十八歳の時、大学に入ったら同級生に救世軍の信徒がいて、その人に誘われて小隊に初め



加茂あづさ候補生

て行きました。そこにはキラキラと輝いている人がいて、また同世代の生き生きとしている人たちがいて、この人たちが信じているものは何だろう、ということでも小隊に通うようになりました。ただ、個人的にイエス様に出会うには、少し時間がかかりました。社会人になつてから、イエス様が私のために十字架に架かってくださった、これが神様なんだと気づいたんですが、そのまま、だれにも何も言わないで、そっとしていたんです。でも、「人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです」(ローマの信徒への手紙10章10節)という聖書の言葉が示されて、小隊長(牧師にあたる)にお話しし、兵士(救世軍の信徒)になりました。その後は神様がいつもいてくださることが前よりもはつきりとわかるようになり、その頃から仕事にも変化が現れてくるようになりました。

—信仰をもつてからも、いろいろな経験をされたと思いますが。

**加茂** はい、私はクリスチャンの家庭で育つたので、神様を信じてはいましたが、二十三歳の頃に、病気になる、長い間社会生活をすることができませんでした。そんな

な暗闇と絶望の中で、イエス様ですがって祈りました。その時に、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」(コリントの信徒への手紙二 12章9節)の聖書の言葉と共に、弱い時に強くしてもらえろという希望が与えられました。この状態から救い出していただけると、信じてことができました。そして、自分の弱さと病を受け入れることができました。すぐに病気が良くなったわけではありませんが、信仰も強められ、その後、献身できるまでに元気になることができました。

ました。救世軍に戻って、初めは孤独を感じたりしたこともありましたが、杉並小隊で金管バンドでラップを吹いたり、日曜学校の奉仕をするようになって、神様の御手のうちに自分が動かされているのを感じるようになり、それからまもなく献身しなさい、という言葉を聞きました。

—お一人で戻ってきたのですか？

**まりこ** 一人で戻るつもりだったのですが、結果的には、その教会で知り合った現在の夫、義人も、救世軍に来るように導かれていました。—どんなふうにご導かれましたか？

**朝澤義人** 私は十八歳の時、沖縄での教会のキャンプに行き、砂浜で、自然を通して神様を感じ、自分を愛してくださいと語っている神様の心の底で感じました。そして自己中心的な自分の罪がわかり、涙を流し、イエス様に心に入ってくださいと二人でお祈りをして、信仰生活に入りました。信仰をもつてからは、イエス様がいつも共にいてくださることを実感するようになり、イエス様のために将来働き



朝澤義人候補生とまりこ候補生



柞山順子候補生

たいと思うようになりました。あのセミナーに参加した時に、子どもたちにイエス様を伝えることが自分の使命だということに気が付きました。具体的に働く場所、献身する教会を考え、祈っている時に、まりこの出会いを通して救世軍を知りました。士官志願者を常に必要としている教会ということで、興味を覚え、杉並小隊と一緒に行くようになりました。そして、やがて自分が献身する教会はここではないかと思ひ、兵士になり、また近くの救世軍の児童養護施設で働かせていただくことになりました。

「いつ献身されたのですか？」  
**朝澤** 就職して一年後です。実は就職が決まった後に、士官候補生が任官される集会に出た時、祈りの中で自分の計画やしようと思つたことがすべて打ち消されて、「献身の時は来年だ」という強い確信が与えられました。このタイミングを逃すまいと思ひました。それで、児童養護施設では一年間だけ働かせてもらい、まりこも同じように献身を示されていたので、結婚後、士官学校に入りました。

「他の方は、どんな経緯で献身したのですか？」

**柞山** 私は、献身する前に、企業病院の整形外科とスポーツ整形外科のある病棟で七年間勤めました。プロを目指す若い人たちの中で、メンタル面で関わることも多かったです。

私はイエス様を信じた時に、今までなかった喜びがあふれて、将来、神様のための働きをしたいという思いが漠然と与えられました。しかし、現実には、きょうだいやも多く、仕事はできるだけ手につけなければいけないと思つて、医療系を目指し、看護師として働くようになったのです。その後もずっと、神様のために働くとはどういうことなのか、探し求めていました。でも、看護師はどうも違うというのがわかって、仕事をやめました。

その後、来日した海外の救世軍の金管バンドのツアースタッフとして奉仕したり、救世軍の病院でチャプレンとして働きました。そんな中で神様は、私に何度も聖書の言葉を通して士官として献身するように示されました。しかし、なかなか決心できない私に、ある時とても厳しい言葉が与えられました。「もう動かなければいけない」と思ひました。そして、母に「献身するよ」と伝えました。その二日後に母は心肺停止で倒れたんですよ。もし、神様がタイムリミットだよ、と追いついてくれなかったら、一番、私の献身を望んで、協力してくれていた母に、天に召される前に献身の思いを伝えることができなかったと思います。



岩見眞理子候補生

「今、皆さんが一番伝えたいことは何ですか？」  
**岩見** 私が神様に出会う前は、心の中に、お金で満たさう、物で満たさうとしても埋まらなかった空洞がありました。それが、イエス様と出会い、初めて自分の命に意味があること、目的があること、神様に愛されていることを知るようになった。「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネによる福音書14章6節)とイエス様が言われたように、イエス様がいてくださって、私の人生に命があふれてくるんだなあと、感じています。この出会いを私自身のものにするだけでなく、どんどん、まだイエス様を知らない方に伝えていけたら、と思つています。



伝道キャンペーンで、楽の音を通して神様の愛を伝える

**朝澤** 今いじめを受けている人の気持ちばかりです。私も二年半、いじめにあつたことがあり、親にも言えませんでした。死ぬしかないのかなと思ひました。そういう経験を通して、みんな一人ひとり気持ちや思いも同じでないから、まったくだ中にいる子どもにとつては「大丈夫だよ」というような言葉掛けを安易にすることはできないと思ひます。でも、本当の救いは、イエス様の光のうちにあることを知つてほしいです。イエス様は、「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」(ヨハネによる福音書8章12節)と言われました。目には見えないけれども、イエス様を救い主と信じて、心に入つていただくことによつて、その力によつて私たちの心も体も変えられて、強くされていくんだ、ということ伝えていきたいです。

クリトリ

ご住所

ご氏名

□ 私の近くの救世軍を紹介してください。  
 □ キリスト教についてもっと知りたいです。  
 □ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

裏  
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

**救世軍士官学校 (入学案内)**

救世軍士官 (伝道者) を養成します。

〈特色〉

- ・ 聖書に基づく救世軍主義
- ・ 教理の学びとその実践
- ・ 救世軍精神による福音の伝道
- ・ 2年間の教育 (全寮制)

〈入学資格〉

伝道者として神に召されているとの確信をもっているクリスチャンで、救世軍の小隊長、または教会の牧師の推薦が必要。(原則として18歳から48歳まで)

救世軍士官学校  
〒166-0012 東京都杉並区和田 1-39-5  
TEL. 03-3381-9837

お問い合わせは、救世軍本営または士官志願者部 (士官学校内) にご連絡ください。

最後に、東日本大震災の支援活動に皆さんも加わつたでしょうが、どんなことを感じましたか？

**鈴木** 今年の夏、私は夏期訓練のため札幌小隊に遣わされました。訓練は、東日本大震災の支援活動から始まりました。被災地に行つて思ったことは、何かをしてあげるとかいうことではなく、被災した人たちの所に一緒にいるということが本当に大事なことなんだということなんです。そして、支援する側、される側というのではなく、隣に座つたり、お茶を飲んだり、お話ししたりすることで、心と心が通じ、言葉を超えてそこにも神様が働いてくださるのではないかと、ということを感じました。言葉ではない、自分の姿を通して

神様のことが伝えていけたらいいなあ、という思いをすごくさせられました。

**加茂** 私は一度しか救援活動に参加していませんが、士官学校では、被災された方を覚えて、その心の癒しや生活の復興のために、今も祈らせていただいています。また、年に二回ある募金活動や社会鍋に携わっている時に、救世軍が継続している救援・支援活動をお伝えすると、「自分は被災地には行けないけれど、よろしくお願ひします」とご献金を託されることがあります。そういう時に、救世軍に対する信用と期待を感じ、これからは変わらなく、復興のために、自分のなすべきことを忠実に果たさせていきたいと思います。

創立者

ウィリアム・ブース

大将

リンダ・ボンド

(万国本営 英国ロンドン)

日本司令官 勝地

次郎 (救世軍本営)

東京都千代田区

http://www.salvationarmy.or.jp

# 救世軍とは

The Salvation Army

聖書の神を信じ、イエス・キリストを唯一の救い主と信じるプロテスタントのキリスト教会です。現在、世界 126 の国と地域で活動し、本部はイギリス・ロンドンにあります。

1865 年、イギリスの牧師ウィリアム・ブースによって、貧しい人々、社会の片隅に追いやられている人々に神の愛を伝えることを目的に、創立されました。人々のニーズに一つ一つ心えながら働きを進める中で、ブースは、軍隊流の組織をとり、その機動力をもって迅速に助けの手を伸べつ伝道して行くようになりました。この働きはまたたくまに他の国々に広がり、多くの人々に生きる希望と喜びを与えてきました。

創立から 148 年経った今日も、その精神は脈々と受け継がれ、街頭生活者の支援、厳しい境遇にある児童や女性の保護、病人や高齢者の介護支援、アルコール依存症者の更生支援、災害被災者の支援などをおこないつつ、伝道をしています。また、国際的な協力体制のもと、人身売買犠牲者支援や開発途上国の自立支援、フェアトレード (公正貿易) の推進なども積極的におこなっています。

日本での働きは 1895 (明治 28) 年に始まりました。日本人最初の救世軍士官 (伝道者) 山室軍平は、平易な言葉、巧みな説教や著書で人々の心を捕らえ、日本にキリスト教を浸透させることに大いに貢献しました。救世軍は職業紹介所を設けたり、廃娯運動や児童保護の推進、低額診療、結核療養所設立などをおこない、その時代時代の社会福祉、医療面のパイオニアとして活動してきました。

現在は 46 の小隊 (教会にあたる)、10 の分隊 (伝道所にあたる)、19 の社会福祉施設と 2 つの病院 (ホスピス併設) を通して、神の愛を伝えています。伝道の拠点である小隊では、日曜日に日曜学校、聖別会 (礼拝) をはじめ、楽器や合唱の練習、屋外での音楽集会などをおこない、週日には信徒の祈禱会や聖書の学び会、子どもや青年のための集会、地域の女性や高齢者を対象とした集まりなどを行っています。そのほか、必要に応じて、施設や病院でのボランティア活動、文書配布なども積極的におこなっています。また、街頭生活者への給食活動や、心の病を抱えた人のための集まりなどをおこなっている小隊もあります。

## 社会鍋募金へのご協力、 ありがとうございました



歳末助け合い募金の社会鍋が、昨年 12 月中旬から年末まで、全国主要都市でおこなわれました。ご献金くださった方々、またボランティアで奉仕してくださった方々に、心からの御礼を申し上げます。皆様から寄せられたご献金は、各地の救世軍の小隊 (教会にあたる) を通して年末の慰問や街頭生活者支援、また国内外の災害被災者支援などに用いさせていただきます。



東京・新宿

## 東日本大震災 被災地復興支援レポート (続)

2011 年 3 月 11 日に起こった大災害と原発事故から、1 年 10 カ月。被災地では厳しい寒さを迎えています。

救世軍の復興支援活動は、震災発生直後から継続して進められています。それらは、仮設店舗街の建設、作業船や漁場監視船、大型テント、フォークリフトの贈呈などの大きなプロジェクトから、子ども会やコンサートの開催、食事会での交流など、精神的なケアの必要に応えるものに及んでいます。これらは、日本国内の皆様からの献金に加え、世界各地の救世軍から寄せられた多額の献金によって賄われています。



宮城県南三陸町の志津川区袖浜へ作業用の大型テントを提供。11 月 21 日に引き渡し式がおこなわれた

昨年は、数回、救世軍国際本部の緊急支援部やアメリカの SAWSO (救世軍ワールド・サービス・オフィス) の担当者が来日し、会計検査と支援状況確認、そして今後の支援の可能性をさぐるための視察がおこなわれました。



時間の経過と共に被災地のニーズも変化してきます。救世軍は、きめ細かな聞き取り調査をおこない、被災地の方々と良い関係を築きつつ、これからも復興支援活動を進めていきます。



宮城県女川町・出島で、11 月 27 日、漁場監視船兼緊急搬送船の引き渡し式がおこなわれた



12 月 4 ~ 5 日、岩手県陸前高田市の 16 個所の仮設住宅や施設で、救世軍北海道チームがクリスマス会などをおこなった



11 月 6 日、SAWSO のスタッフも仮設住宅を訪ね、交流の時をもった

### 街頭生活者支援ボランティア募集

街頭での給食サービス (調理・配布) にご協力くださる方を募っています。

配布場所—東京・大手町

●お問い合わせは……救世軍本営社会福祉部  
Tel.03-3237-0865



### ウエリントン・シタデル・バンド

(ニュージーランド救世軍小隊 (教会) 所属の金管バンド)



#### 4 度目の来日!

2013 年 11 月 16 ~ 27 日、日本ツアー

11 月 19 日 (火) 浜松公演 (アクロシティ中ホール)

23 日 (土) (栃木県未定)

25 日 (月) 東京公演 (杉並公会堂)

26 日 (火) クリスマス・ブロムナードコンサート (東京都内)  
他、救世軍聖別会 (礼拝)、スクールコンサート、東北被災地訪問演奏などをおこないます。



発行所 救世軍本営  
〒101-0051 東京都千代田区  
電話 東京 (03) 三三七〇八八一  
印刷所 救世軍本営  
〒101-0051 東京都千代田区  
電話 東京 (03) 三三七〇八八一  
編集人 齋藤 恵子  
印刷兼 代表者 勝地 次郎  
発行兼 代表者 齋藤 恵子  
発行日 毎月一日・十五日  
定価 一日号一部五〇円 (〒六〇円)  
十五日号一部六〇円 (〒六〇円)  
クリスマス特集号 (十二月一日号) 一部一〇〇円 (〒六八円)  
一年分 二七〇円 (送料七二八円)  
振替 〇〇一八〇五四四〇〇

#### (取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません)